

価値観の橋渡し

二〇二二年度インターン 小野里 祐太

現在、私は母と共に暮らしている。父の母に対する度重なるDVをきっかけに夜逃げをし、調停の末、離婚が決まった。子ども三人の親権は母へ渡ったが、二週間に一回の父との面会交流を余儀なくされている。「余儀なくされている」と書いたが、正直に言うと嫌ではない。子どものことをよく気にかけてくれ、たまにしか会えない分、色々な所へ連れて行ってくれる。無邪気な小学生の妹はそれを楽しみにしているくらいだ。お互いに利益的な面会に思えるが、ここで辛いのが母だ。憎むべき夫に子ども達を取られたように感じてしまうのだろう。父と折り合いがつかず、一触即発の事態になることも少なくない。だから今もお、第二の調停は続いている。調停委員は他でもない、私自身だ。

この本を読んで、「バックチャンネル」という言葉が強く印象に残ったのは、家族内での自分の立場に近しさを覚えたからだろう。バックチャンネルとは政治用語で裏の外交ルートのことである。外交上で問題が起きた際、公式の交渉チャンネルとは別に、お互いが本音で話し合える場所があることが重要なのだという。「貿易戦争」と呼ばれるほどの激しい貿易摩擦があった時代、両国の国民感情はこれまでにないほど悪化していた。そこで頼りにされたのが、日本株式会社の顧問弁護士…村瀬二郎である。彼は日系アメリカ人であったため、日米それぞれの価値観を持ち合わせていた。日米のバックチャンネル成立のきっかけをつくり、その後もバックチャンネルの重要性・必要性を説き続けていたのだそう。日米双方の政府、官僚、企業に交渉窓口として頼られ、それらを助けた。双方に属していた村瀬二郎だからこそ成し得たことである。

私はまさしく両親のバックチャンネルだ。面会交流を重ねるにつれ、私を介せば両親の関係がうまくいくことに気づいた。母の気持ちも父の気持ちも、一番よく理解しているのは私だ。二人が直接話し合うとこじれてしまうことも、私から話せばうまくいく。それができるのは両者と尊重し合えているからだと思う。だが、少なからず罪悪感もあった。五年前に母を選んだのにもかかわらず、父の気持ちを尊重することが母に対する裏切りのようで気が引けた。両親の間で自分がどうあるべきか悩むことも多かった。そんなときにこの本を読んで、何事も白黒と決めつけず、グレーも立派な価値だとする村瀬二郎の価値観に心を惹かれた。有力クライアントだからといって順番を優先するのではなく、自分が日系人

だからといって絶対的に日本人の味方をするのでもなく、あくまで公平・公正に物事を判断する彼の姿がどれだけ心に響いたことか。自分に当てはめて考えたとき、これまでやってきたことに少しだけ誇りを持てるような気がした。もちろん、父に対する憎しみはまだある。母にしたことを許したわけではないし、母の味方でいようと誓ったあの子の決意を忘れたわけではない。だがそれで父の気持ちを排除してしまえば、今後ずっと分かり合えはしないだろう。過去と切り離し、お互いに本音で話し合うことで双方の利益につながるはずだ。しかし、一口に「本音で話し合う」と言っても実際には難しい。相手の価値観が理解できていなければ自己中心的な主張ばかりになってしまい、本音で話し合うことなど到底不可能だ。だから「立場にかかわらず相手の価値観を尊重し、理解しようとする気持ち」が重要になってくる。それこそが私の考えるグローバルシチズンシップだ。

村瀬二郎の生涯を知り、イソップ童話の『卑怯なコウモリ』という物語を思い出した。コウモリもまた、対立した鳥と獣の両方に属しており、二つの価値観をよく理解できた存在であった。この点で言えば非常に似通っているが、決定的に異なるのは、コウモリがその立場を自分のためだけに使ってしまったことだ。鳥と獣の戦争中、戦況が有利な方に何度も寝返り、最終的には鳥にも獣にも嫌われてしまう。両者のバックチャンネルになり得た存在だけに、なんともつたいないことだろうか。

世の中には様々な価値観が溢れている。しかし私達は普段、自分の価値観だけで物事を判断してしまいがちだ。そのせいで価値観が衝突し、対立が生まれることも少なくない。それは身の回りだけでなく、世界規模で見ても同じである。今後グローバル社会が発達し、異文化圏の様々な人と交流していく中で、受け入れ難い価値観と出会うこともきつと多くなるだろう。そんなときこそ、勇気と敬意と寛容さを持って相手の価値観に足を踏み入れてみようと思う。本の中で、村瀬二郎がそうしていたように。相手と同じ視点に立つことができれば、心の距離は一気に短くなるはずだ。コウモリのように自分が価値観を知っただけで満足することはしない。価値観の衝突があったときに、双方が理解し合い、納得できる落としどころを見つげるために橋渡しをする。そんなグローバルシチズンに私はなりたい。